

地域包括支援センター主催の健康教室から自主活動健康教室へ

【取り組みと経緯】

2月・・・自治会長へ相談

自治会長が住民にアンケート配布・集計
(開催の有無・参加の有無・
希望曜日と時間・回数)

3月・・・地域包括支援センター職員と
年間計画作成

6月・・・健康教室開始

- ◆ 参加人数 12～15名
- ◆ 講師紹介の相談は
市や地域の病院等

【今後の課題】

自主活動に向けての住民に対するアプローチ

- 1) 社会資源の提供と活用方法の伝授
- 2) 自主活動グループのリーダー的存在の確立
- 3) 住民の参加意欲の継続

【効果】

自治会長 + 地域包括

(住民の反応) ・「どんなものだろう？」

参加住民 + 地域包括

- ・「この日が楽しみ!!」
- ・「月1回では物足りない」
- ・「話を聞くより、体を動かしたい」

参加住民が中心に・・・

- ・「来年も続けてほしい。続けたい。」
- ・「一人では体操せん。
みんなと一緒にだからできる。」
- ・「カレンダーに○をつけてる」
- ・「ここに、来るのが楽しみ!!」





地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

① 区町村名	別府市風呂本
② 口（※1）	121, 998 人 (177 人)
③ 高齢化率（※1） （65 歳以上、75 歳以上それぞれについて記載）	65 歳以上 29. 29% (65 歳以上 42. 37%) 75 歳以上 15. 29% (75 歳以上 15. 29%)
① 取組の概要	担当圏域の一部地区に限定し、公民館を利用して健康教室を開催した。観光地の中心部でもある場所なので他者との交流も図れ、昔のにぎわいを感じながら、公民館に足を運び、介護予防についての意識を高めることを目的とした。
⑤ 取組の特徴	地域包括より自治会長へ健康教室開催について相談をし、自治会の働きかけで始まり、1 年間の計画にて実施。
⑥ 開始年度	アプローチ開始：平成 24 年 2 月～ 教室開始：平成 24 年 6 月～
⑦ 取組のこれまでの経緯	①自治会長に相談 ②自治会長が住民にアンケートを配布（開催の有無/参加の有無/希望曜日と時間・回数）③年間計画立案と講師調整 ④実施
⑧ 主な利用者と人数	利用者：地域住民 人数：平均 11～13 名
⑨ 取組の実施主体及び関連する団体・組織	自治会と包括支援センターが主催。実施していく中で参加住民が中心となった。
⑩ 市区町村の関与（支援等）（※2）	講師派遣および講師紹介等は市役所に相談
⑪ 国・都道府県の関与（支援等）（※3）	なし。
⑫ 取組の課題	自主活動に向けてのアプローチについて検討する必要がある。
⑬ 今後の取組予定	① 社会資源の提供と活用方法の伝授 ② 自主活動グループのリーダー的存在の確立 ③ 住民の参加意欲の継続
⑭ その他	
⑮ 担当部署及び連絡先	別府市朝日地域包括支援センター

※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。

※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

